

# 富山県高岡市方言の副助詞

麻生 亜希恵・老田 真由美

## I. はじめに

1. 調査対象地：富山県高岡市は、富山県北西部に位置する人口約17万人の市である。古くは高岡城の城下町として栄え、現在は県西部の政治・文化・経済の中心地で、銅器や漆器・漆・器などの伝統産業が300年以上も続く北陸有数の商工業都市である。また、大伴家持が越中国守として約5年間を過ごし、数々の秀歌を残した万葉ゆかりの地でもあり、風光明媚な自然にも恵まれている。
2. 調査年月日： 1997年1月15日（木） 午後7時～午後8時
3. 話者： 麻生 外茂子 昭和24年12月7日生（48歳）
4. 調査者・調査場所： 麻生亜希恵、話者宅
5. 調査方法： 統一調査票による質問調査
6. その他：①アクセントは、高めを棒（例：アメ）引きで記す。  
②ガ行鼻濁音については、表記上反映させていない。

## II. 調査結果

(1) 添加・例示・提題などをあらわすもの

### A. 添加

1. 雨だけでなく風さえ吹いてきた。 ○ア<sup>マ</sup> ダ<sup>ラ</sup>デ<sup>テ</sup>ク カセ<sup>サ</sup>エ フィ<sup>テ</sup>キタ。
2. 今年は豊作で、米ばかりか麦もよくとれた。  
○コトシワ ホウサク<sup>デ</sup> コメ<sup>バ</sup>ッカ<sup>リ</sup>デ<sup>ナ</sup>ー<sup>テ</sup> ム<sup>ギ</sup> モ ヨー<sup>ト</sup>レ<sup>タ</sup>。

### B. 予想外の事実

3. 小学生でさえ簡単にワープロと使っている。  
○ショウ<sup>ガ</sup>クセー<sup>デ</sup>サ<sup>エ</sup> カン<sup>タ</sup>ン<sup>ニ</sup> ワー<sup>プ</sup>ロ ツ<sup>コ</sup>ー<sup>ト</sup>ル。
4. (宝くじが) 当たると思っていなかっただけに嬉しい。  
○タカラ<sup>ク</sup>ジ ア<sup>タ</sup>ルト<sup>オ</sup>モ<sup>ー</sup>ト<sup>ラ</sup>ン<sup>ダ</sup>ダ<sup>ケ</sup>ニ ウレ<sup>シ</sup>ー。

### C. 条件

5. 暇さえあれば釣りに行っている。 ○ヒマ<sup>サ</sup>エ<sup>ア</sup>レ<sup>バ</sup> ツリ<sup>ニ</sup> イ<sup>ッ</sup>トル。

### D. 例示

6. まあお茶でも飲んでください。 ○マー オチャ<sup>デ</sup>モ ノン<sup>デ</sup>ッテ<sup>ク</sup>ダ<sup>サ</sup>イ。
7. みやげにはこのまんじゅうなどどうかな。  
○ミヤゲ<sup>ニ</sup> コノマン<sup>ジュウ</sup>ナンカ イイ<sup>ガ</sup>デ<sup>ナ</sup>イケ。
8. 思わず跳び上がるほど嬉しかった。 ○オモ<sup>ワ</sup>ズ トビア<sup>ガ</sup>ル<sup>ホ</sup>ド ウレ<sup>シ</sup>カ<sup>ッ</sup>タ。
9. まさかあなたにまで話が行くとは思わなかった。  
○マサカ アン<sup>タ</sup>マ<sup>デ</sup> ハナ<sup>シ</sup>ガイ<sup>ク</sup>ト<sup>ワ</sup> オモ<sup>ワ</sup>ン<sup>ダ</sup>。
10. なぐるやら蹴るやらの乱暴をはたらいた。

○ナグルヤラケルヤラノ ランボー ハタライタ。

11. 私になり相談してくれれば良かったのに。

○ワタシニナリ ソーダンシテクレレバ ヨカッタガニ。

12. 野菜なんていくらでもできる。 ○ヤサイナンカ イックラデモ デキルヨ。

13. しょうゆだってみそだって作っていたんだ。

○ショーユモ ミソモ ツクットッタガイゼ。

14. 私なり弟なりがお手伝いに行きます。

○ワタシナリ オトートナリガ オテツダイニ イキマス。

15. 村長とて、そうするより仕方なかったんだらう。

○ソynchョーヤッタカシテ ソースルヨリ シカタナカッタガヤロ。

16. 春らしくなって、梅も桜も一度に咲いた。

○ハルラシクナッテ ウメモ サクラモ イッペンニ サイタ。

17. テレビもそろそろ買い替えよう。 ○テレビモ ソロソロ カイカエヨー。

18. まあお茶でものんでください。 ○マー オチャデモ ノンデッテクダサイ。

19. 盆には子や孫などが帰ってくる。

○ボンニハー コドモヤラ マゴヤラガ カエッテクル。

20. ゲートボールだってできるよ。 ○ゲートボールダッテ デッキョ。

21. 何だい、いいことって。 ○ナンゲ イーコトッテ。

22. そんなこと子供にでもできるよ。 ○ソナナコト コドモニデモ デッキョワイネ。

23. 食べることにくらいは何とかしたい。 ○タベルコトグライ ナントカシタイ。

24. 名前さえろくに覚えていない。 ○ナマエサエ ロクニ オボエトラン。

25. 弁当代に千円もかかった。 ○ベントーダイニ センエンモ カカッテシモタ。

26. これさえあればもう大丈夫だ。 ○コレサエアレバ モー ダイジョーブヤ。

(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの

#### G. 分量・程度

27. 旅行で三日ほど家をあけた。 ○リョコーデ ミッカホド ウチ アケタ。

28. 茶碗に半分くらいください。 ○チャワンニ ハンブングライ クダサイ。

29. 子供にでもわかるくらいのやさしい本だ。

○コドモニデモ ワカルクライノ ヤサシー ホンヤワ。

30. 一週間ばかり留守にするので頼むよ。

○イッシュューカンバカリ ルスニ スルモンデー タノンチャ。

#### H. 基準

31. 今年の寒さは去年ほどではない。

○コトシノ サムサワ キョネンホドデワ ナイネ。

I. 理由

32. ちょっと油断したばかりにとんでもないことになった。

○チョット ユダンシタバツカリニー トンデモナイコトニナツタワ。

J. 「それにふさわしく」

33. 苦勞しただけあって人間ができている。

○クロシタダケアツテ ニンゲン デキトルネ。

34. 毎日孫の守りやなんかで忙しい。 ○マイニチ マゴノモリヤナンカデ イソガシー。

35. それこそバケツをひっくり返したような大雨だ。

○ソレヨソ バケツヒックリカエシタヨーナ アーアメヤワ。

36. 父ばかりか母もスポーツ好きだ。

○チチバツカデナーテ ハハモ スポーツ スキヤワ。

K. 今に行われる

37. もう食べるばかりにしてある。 ○モー タビツバツカシニ シテアルワ。

38. 今、仕事から帰ったばかりだ。 ○イマ シゴトカラ カエツタ バツカリヤゼ。

39. 駅までもうちょっとだ。 ○エキマデ モーチョットヤヨ。

L. 等量の反復

40. 一人ずつ呼んで話をした。 ○ヒトリズツヨンデ ハナシタ。

M. 等量の配分

41. 一人に二個ずつみかんをやる。 ○ヒトリニー ニコズツ ミカンヲ アゲル。

(3) 限定・限界などをあらわすもの

N. 限定

42. 酒はたまにしか飲まない。 ○サケワー タマニシカ ノマンワ。

43. 今朝は寝坊をしてパンだけ食べて来た。

○ケサ ネボーシテ パンダケ タベテキタ。

44. そんなに勉強ばかりしていると体に毒だよ。

○ソんなニ ベンキョーバツカリシトツタラ カラダニドクヤヨ。

45. うちの田が残っているきりで、よそは全部終わった。

○ウチノタンボダケ ノコットッテー ヨソ センブ オワッテシモタガイゼ。

O. 強調

46. もうこれだけしかないよ。 ○モー コレダケシカ ナイガイヨ。

47. 今年こそいい年にしたい。 ○コトシコソ イートシニシタイワ。

P. 限界

48. これだけ言っても分からないのか！ ○コーレダケユーテモ ワカランガケ。

49. 2千円くらいまでなら何とかなる。 ○ニセンエンクライマデナラ ナントカナルワ。

(4) 陳述的なもの

50. 肥料をやればやるだけよく育つ。 ○ヒリョーヤレバ ヤルホド ヨクソダツ。

51. 心配すればこそ言うんだ。 ○シンバイシトツカラコソ ユーガヤゼ。

52. 彼は文句こそ言え、人の言うことなど聞かない。

○コノヒトハ モンクコソ ユーテヤケド ヒトノユーコトナンカ ゼッタイキカンヨ。

53. 「～でこそあれ」という言い方はしない。

54. 質問の意図が分からないため不明。

55. 「～こそ」という言い方はしない。

56. 今でこそ家から出ないが、昔はよく出歩いていた。

○イマデコソ ワチカラデンケドー ムカシワ ヨーデアライトッタワ。

57. 働けば働くほどもうかる。 ○ハタラケバハタラクホド モーカル。

R・打ち消しとの呼応

58. 村長に聞くまでもないことだ。 ○ソソチョーニ キクマデモナイコトヤ。

59. 朝から忙しくて昼飯も食えない。

○アッサカラ イソソガシテ オヒルゴハンモ タベラレン。

60. こんなものなどいくらでもあるよ。 ○コンナモンクライ イックラデモアルワ。

61. 誰だってそんなことを言われたら怒るよ。

○ダレカシテ ソンナコトイワレタラ オコルワ。

S. 次の動作が不可能

62. 10年前に故郷を離れたきり、一度も帰っていない。

○ジューネンマエニ コキョーオ ハナレタッキリ イッカイモカエツラン。

(5) モダリティー的なもの

63. いつのまにやら眠ってしまった。 ○イツノマニヤラ ネムツテシモータワ。

64. 何のことか分からない。 ○ナンノコトカ (サツバ) ワカラン。

65. 後で遊びに行くかもしれない。 ○アトデ アソビニイクカモ シレンガラ。

66. 来るのやら来ないのやらよくわからない。

○クンガカ コンガカ ヨー ワカラン。

67. どこやらへ引っ越したそうだ。 ○ドコヤラ ヒッコシタッタソーヤワ。

68. お父さんたら今日も遅いのね。 ○オトーサン キョーモ オソイガイネ。

69. お父さんてば、子供のようなことを言って。

○オトーサン ナンケアンタ コドモノヨーナコト ユーテ。

III. 総括(まとめ)

高岡市方言においては、この地方独自の方言型であると思われる副助詞の使用はそれほど多くなかったが、少しだけ特徴が見られた。

(1) 添加・例示・提題などをあらわす副助詞

・副助詞「など」は使われず、例示の「など」は「ナンカ」で、包括の「など」は「ヤラ」の形で使用されている。

(2) 分量・程度・基準などをあらわす副助詞

・「～ばかり」という副助詞は「～バツカリ（バツカシ）」と使われる。

(3) 限定・限界などをあらわすもの

・副助詞「ダケ」は、「ケ」が高く発音される。

(4) 陳述的なもの

・全面否定の「だって」は、「カシテ」という形になる。

・副助詞「きり」は、前に接続する動詞と副助詞「きり」の間に促音が入る。

(5) モダリティー的なもの

・非難の副助詞「たら」「てば」に相当する語は、見出せない。

(あそう あきえ(株) グッドラックとやま・おいだ まゆみ 北陸ゼロックス(株))